

## 愛知学院大学歯科資料展示室の紹介

浅川満彦 酪農学園大学獣医学部寄生虫学教室(野生動物学)

野生動物医学教育充実の装置に、展示施設は必要である。最近、愛知学院大学歯学部(名古屋市千種区楠元町)で、歯科資料展示室が完成したとの情報を、野生動物医学会福島大会に参加中の同学の子安和弘氏(同学解剖学第2教室および展示室専任教員)から得た。我々は是非ともその施設を、ニュースレターで紹介して欲しいと依頼したが、子安氏は公務出張の連続であること、さらに本学会に未加入であることから、写真資料を元にわれわがごく簡単に紹介したい。

まず、施設外観と位置は、図1の建物の1階、6階および7階に展示部門と資料永久保存施設がある。1階の展示室と資料整理室の配置は、図2で示すごとくである。入り口(図3)を入ると、歯学部の歴史、歯学史などについてパネルと資料で紹介している。また、研究コーナーでは、比較解剖学の研究の紹介として、脊椎動物の頭蓋、顎および歯などの形態進化の様子が常設展示されていて(図4)、野生動物医学の教育展示方法に示唆を与えている。6および7階には、本展示施設のバックヤードに相当する資料永久保存施設がある。図5は6階部であり、夏目客員研究員(名古屋大学大学院生命農学研究科大学院生)が、愛知県産318個体の



図1

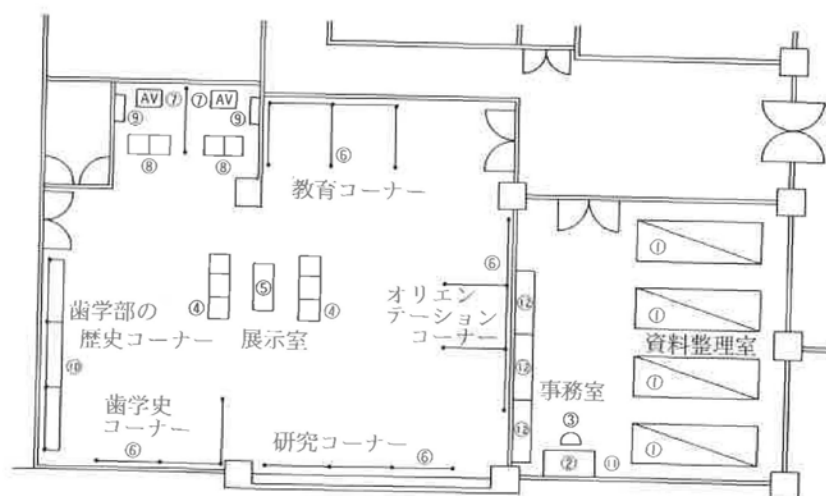


図 2



図 3



図 4

カモシカ頭蓋(年齢既知)について、亀山歯学部長に解説しているところである。経済的な制約が多い私立大学で、しかも歯学という応用科学の分野で、自然史的な展示施設が新規に誕生したことは、獣医大学で同様な施設を模索しているものにとって、きわめて刺激的な試みといえよう。野生動物医学の教育研究システムでは、進化や生態という側面は無視できないからである。



図 5